日本集中治療医学会学術集会 2019

タイトル： ECMO中の輸血需要に関連した臨床的特徴と凝固管理

英語タイトル：Clinical characteristics and anticoagulant therapy associated with blood transfusion demand during ECMO

1. 青景聡之 Toshiyuki Aokage
2. 平山隆浩 Takahiro Hirayama
3. 塚原紘平 Kohei Tsukahara
4. 高寛　Hiroshi Taka
5. 清水一好 Kazuyoshi Shimizu
6. 中川晃志 Koji Nakagawa
7. 岩崎達雄 Tatsuo Iwasaki
8. 笠原真悟 Shingo Kasahara
9. 内藤宏道 Hiromichi Naito
10. 中尾篤典 Atsunori Nakao

高度救命救急センター Advanced Critical Care and Emergency Center

臨床工学部 Division of Clinical and Medical Engineering

手術部 Division of Operation

循環器内科 Department of Cardiovascular Medicine

小児麻酔科 Department of Pediatric Anesthesiology

心臓血管外科 Department of Cardiovascular Surgery

岡山大学病院Okayama University Hospital

抄録：本文　全角650字（図表あり）

【背景・目的】ECMOには抗凝固療法が必須であり、出血や貧血を代償するため輸血が用いられる。輸血需要に関連した患者の臨床的特徴、凝固管理、予後については十分に解明されていない。本研究では輸血需要が増加しやすい患者の特徴を明らかにし、リスクに応じて異なる抗凝固戦略の必要性について考察する。

【方法】2013年1月から2018年8月までの成人ECMO症例 67例のうち、96時間以上のECMO使用例、30例を研究対象とした。開胸手術、Central ECMOを要した症例は除外した。入院時の臨床的特徴および、導入から7日目まで（離脱・回路交換を行ったものはその時点まで）の輸血量と凝固パラメータを評価した。1日あたりの平均赤血球輸血量の中央値は240 ml/dayであったため、少量輸血群(＜240ml/day)13例と多量輸血群(≧240ml/day)17例の2群に分類し、臨床的特徴と凝固パラメータ、予後について解析した。

【結果・考察】臨床的特徴・予後を表に示す。多量輸血群ではVA ECMOの頻度が高かった。年齢・性別・APACHE/SOFAスコアは両群間で差はなかった。管理面では、多量輸血群で、血小板値が低く、ヘパリン使用量が少ない反面、APTTは延長していた。ACTとECMO期間に差はなかった。VA ECMOでは、VVよりも出血が生じやすい可能性があり、輸血量に反映された可能性がある。

【結語】VA ECMOでは輸血需要が増加しやすく、VVと異なる抗凝固戦略の必要性が示唆された。

